

青森県内には東日本、北海道、貨物のJR3社が共存し、東北（北海道）新幹線、奥羽本線、五能線、津軽線、大湊線、八戸線の路線がある。民営鉄道（民鉄・私鉄）には弘南鉄道の弘南線と大鰐線、津軽鉄道があり、第3セクターの青い森鉄道と八戸臨海鉄道がある。かつては南部鉄道、十和田観光電鉄、下北交通大畑線、弘南鉄道黒石線があり、第3セクターの南部縦貫鉄道があった。

998（平成10）年に弘南鉄道黒石線、2001（平成13）年に下北交通大畑線、翌年に南部縦貫鉄道、2012（平成24）年に十和田観光電鉄が廃止となった。

「青森県史デジタルアーカイブス」には、「青森県の鉄路と風景」と題し、1979（昭和54）年から1996（平成8）年

十勝沖地震の翌1969（昭和44）年、南部鉄道が廃止された。その後、1980（昭和55）年に国鉄再建法が施行され、翌年に黒石線と大畑線が廃止の対象となった。このときは鉄道の必要性を求める動きが強く、1984（昭和59）年に弘南鉄道が黒石線を引き継ぎ、翌年に下北交通が大畑線を引き継いだ。

しかし、自動車社会の浸透と過疎化による利用者の減少で、鉄道は平成の時代に入り廃止が相次いだ。1

白石さんによると、自らが撮影してきた膨大なプリント写真を自宅で保存するのが難しくなったそう。そこで地域ごとに文書館や歴史資料館の役割を持つ機関へ寄贈し、歴史資料として保存し公開するのが有効な活用方法だと考えるに

至ったという。

写真は史料館の職員になつてから「将来には歴史資料になるという観点での撮影を心がけている」とのこと。青森県史の編さんにあたり、資料編の口絵写真に掲載し、新聞や雑誌に何度も使用した経緯があり、貴重な歴史資料になっている。

今回掲載した下北交通大畑線と弘南鉄道黒石線は、四半世紀前の撮影で比較的

青森県の鉄路と風景 少し前の記録を残す

中園 裕

（県民生活文化課
県史編さんグループ主幹）

時兵庫県の尼崎市立地域研究所職員だった白石健二さんが寄贈した写真群である。

新しいものである。しかし、現在どちらの鉄路も存在せず、周りの風景も大きく変貌している。廃止されたばかりの十和田観光電鉄も、

廃止後8年の歳月が過ぎた。社会の移り変わりが早い。今、資料や写真は意識して残し撮影しておかないと後世に残らない。それだけに白石さんからの寄贈写真は貴重な価値を有する。デジタルカメラやスマー

トフォンの普及で、誰もが容易に膨大な数の資料を撮影でき、写真を残すことが可能となった。しかし、膨大な数のデータを整理し保存する行為が追いつけない事態が生じている。面倒な余り、データ自体を消去してしまう最悪の事態も起こり得る。何を記録し何を残すかの基準と判断が求められるだろう。公私を問わず組織や機関、企業や会社にとつて、記録の整理と保存には一定の人員と費用を用意する時代が来ているのである。



写真②弘南鉄道黒石線と川部駅＝1994（平成6）年8月28日

写真①下北交通大畑線と田名部駅＝1994（平成6）年8月27日

①②いずれも白石健二さん撮影（青森県所蔵県史編さん資料）